

## 「頼もしい君たち」へ

不安がなかったと言えましょう。日本と韓国との交流の中止や延期が相次ぐ中で、昨年12月末に敢行した日韓友好中学生派遣事業。平昌郡大閔嶺中学校との32年に及ぶ相互交流は、これまで国家間の領土や歴史問題で継続が危ぶまれた時でも、一度も途絶えることなく続けられてきました。それが全国で唯一と評価され、平成30年には一般財団法人高円宮記念日韓交流基金から表彰されました。

棒鱈生産が主たる生業だった寒村から、冬季五輪を開催するまでに発展を遂げた平昌。30余年前、韓国初のスキー場建設に、当市の技術者が招聘されたことをきっかけに、始まった相互交流です。

心配などは杞憂で韓国のみなさんは大変な歓迎ぶりであり、派遣生は立派に交流を果たしたと。訪韓直前には駐新潟大韓民国総領事の鄭美愛氏がわざわざ当市におこしになり、派遣生を激励してくれました。外交筋からの温かいご配慮に心から感謝

したい。

本稿を書くにあたり、思い立って書齋で本を探しました。司馬遼太郎が小学生向けに書いた『21世紀に生きる君たちへ』という随筆です。作家が遺書のように記したという作品の中で「自分にきびしく、相手にはやさしく、いたわりを持つ。それらを訓練することで、自己が確立されたのもしい君たち」になっていく。以上のことは、いつの時代になっても、人間が生きていくうえで、欠かすことができない心がまえというものである。君たちはつねに晴れあがった空のように、たかだかとした心を持たねばならない（要旨）と語りかけています。

交流事業のこれからの思いを巡らす私は、不思議にすつと得心できた気がした。性急に結果を求めたがる余裕を欠いた世相ですが、私たちは彼らを信じて、機会を与えるだけではないのではないか。司馬はこう締めくくる。「書き終わって、君たちの未来が、真夏の太陽のようにかがやいているように感じた」と。あとは彼らが考えればいい。

シリーズ  
第83回

## 国際大学留学生 お国自慢コーナー ～boast of my country～

ジンバブエ共和国 チポ ジャヤさん



## 私の国はこんなところ

ジンバブエはアフリカ南部に位置し、石彫刻の豊かな伝統「グレート・ジンバブエ遺跡」や「ビクトリアの滝」など、自然の観光名所で知られています。

私たちの主食は「サザ」というトウモロコシ科の植物を原料に作られたもので、野菜や肉と一緒に食べます。お勧めは水牛料理とマゾエドリンクです。

今日、ジンバブエを訪れる観光客は、動物の皮を着た私たちが演奏するマリンバと伝統的なダンスを楽しみながら、ジンバブエの物語を知ることができます。



## 南魚沼市に住んで感じたこと

日本到着後、東京、関西地方、山形、仙台、千葉、佐渡島、そして最後に新潟県に行きました。国際大学の学生になったことで、南魚沼の環境と文化に順応できました。浦佐エリアを散策しながら、私の国では決して見ることのできない緑や冬景色を楽しんでいます。

南魚沼での滞在を際立たせたイベントは、浦佐毘沙門堂裸押合大祭です。豊かな日本の文化を感じることができる屋台の食べ物を食べながら、素晴らしい情景を楽しむことができる、本当に楽しいイベントです。

## ジンバブエ共和国

公用語	16の公用語
首都	ハラレ
面積	390,757km <sup>2</sup> (61位)
人口	13,805,084人
GDP(PPP)	256億ドル (126位)
通貨	RTGSドル

※ GDPは国内総生産のことで、購買力平価説(PPP)により算出した数値です